

■ 日本アドバンス・ケア・プランニング研究会第9回年次大会準備中！

2024年9月21日（土）北海道札幌市で開催
「ACPサイクルでつなぐ人生会議」～話す、残す、伝える、見直す～
会場 かでる2.7（札幌駅より徒歩約10分）

<https://homepage.kaderu27.or.jp/>

会場参加型（一部後日オンデマンド配信あり）

※オンデマンド配信のみの申込み可
終了後、懇親会あり

http://jacra.umin.jp/acp_meeting9/index.html

[ホームページから参加申込を受付中](#)



【写真】プレ企画その4

講師・座長事務局（配信会場来場者）
右から福田先生、村中先生、石塚先生、
澤田先生、事務局（岡村）

■ プレ企画その4開催しました

ACP総合討論

【進行】第9回年次大会 大会長
・福田 直之 先生
・澤田 格 先生

7月19日（金）オンラインで「ACP総合討論」をテーマにプレ企画その4を開催しました。
演者に會津 恵司先生（春日井市民病院緩和ケアセンター部長・がん相談支援センター部長／愛知県春日井市）にACP×病院として「病院内でどのようにACPを職員に浸透させるか」、西澤 寛樹先生（社会福祉法人恵和福祉会／北海道北見市）にACP×介護施設として「介護施設こそACP」、石塚 慶如 先生（ゆいと法律事務所／北海道札幌市）にACP×法律として「法律家の考えるACP」、村中 沙織先生（札幌医科大学附属病院高度救命救急センター／北海道札幌市）にACP×救命救急として「救命救急の現場で考えるACP」をそれぞれテーマにお話をいただきました。

当日は250名以上がオンラインで参加され、活発な意見交換ができました。

<アンケート>一部

- ・ACPの職員への周知に困難を感じていたので参考になりました。
- ・ACPの取り組みについて院内や施設でのタイミングや記録の残し方について知ることができた。
- ・知らないことだらけで良い刺激を受けました。ACPをこれから学んでいくきっかけになりました。

プレ企画4の一部質疑をご紹介します。

質問	回答
<p>・ACPを開始するタイミングはどのように考えたらよいでしょうか。（北海道 医師）</p> <p>・入院患者さんには、どのタイミングでACPの話をしたら良いですか。（北海道 看護師）</p>	<p>当院でも「入院時」に全例で聞いています。さらっと聞くイメージです。内容はリビングウィル、延命治療の可否のようなものというよりは、本人の今後の医療に対する考え方を中心に聞くスタイルです。</p> <p>推奨されるタイミングは、一般的に「入院時」「回復時」「退院時（病院で、施設で）」「施設入所時」などが好ましいのではないかとされています。また、「誕生日」や「お盆」「年末年始」など家族が集まる時など、節目節目で聞くことが良いでしょう。厚生労働省は、11月30日を「人生会議の日」と定めていますので、そのタイミングも良いかも知れません。</p> <p>最も重要なタイミングは、本人から自発的な発言があった時です。</p> <p>9月21日の当日に「医師と看護師で語る病院でのACP～ACP学びのサイクルの提案～」という企画を予定していますので是非ご参加ください。（西岡病院 澤田 格先生）</p>

質問	回答
<p>当院は回復期リハビリテーション病棟の機能を持つ慢性期病院です。機能が回復する過程の中で、ACPをどのように介入したらいいのか、また他職種と協働して進めるためにはどのように進めたらいいか、アドバイスをいただきたいです。 (長崎県・看護師)</p>	<p>コミュニケーションとしては、今回の疾患での経験を尋ねて、もし万が一また同じことが起こったらどうしたいかと聞くことはACPの相談のきっかけになると思います。現時点での病状の理解や今後の見込みについての認識もわかり今後につながります。他職種と協働するためには患者さんの思いを共有する方法が必要です。カルテ内やカンファレンスで共有する方法を施設として検討すると良いと思います。(春日井市民病院 會津 恵司先生)</p>
<p>救急患者が搬入された現場で、非常に差し迫った時間経過の中、本人や家族からACPの要点を聞き出すポイント、また問いかけ方の工夫などありますか。 (北海道・医師)</p>	<p>救命に向けた治療を開始していることを前提に、病状と治療に関する情報提供とあわせて「もしものとき」かもしれないことを認識いただくようなコミュニケーションを心掛けています。(バッドニュースを伝える場合と同様の) コミュニケーションスキルを用いて、これまでのご家族等との「死別の経験の有無」や「万が一のとき...」の話の伺いながら、ACPに関する話につなげて確認したりしています。(札幌医科大学附属病院 村中 沙織先生)</p>
<p>高齢者施設で急変して病院に搬入された場面で、施設側からACPや、それに準じた情報提供がなされたケースはありますか。あったとしたら、どのような内容ですか。差支えない範囲で教えてください。 (北海道・医療ソーシャルワーカー)</p>	<p>「延命治療に関する意向確認書」などの文書や「私の生き方ノート」などの提出による情報提供がありました。延命治療に関する文書は、主に施設入所時にご家族が署名したものが多くです。そのため、署名の日付は入所日であり更新されていないものも多く、搬送時に再度確認しております。情報提供(文書)の内容は、「救急搬送の希望の有無」「蘇生処置の希望の有無」「施設での看取りの承諾」などが多く、中には、胃チューブの挿入や点滴の希望などが記載されているものもあります。施設職員の方が、記録を持参される場合もありますが、私が見た中では、ACPに関する内容は少ないです。(札幌医科大学附属病院 村中 沙織先生)</p>
<p>介護施設で誤嚥し入院、治療後施設に戻ったが、また誤嚥して再入院...を繰り返す人がとても多いです。意思疎通もままならずADLも低い状態で身体拘束もされている。どこで、誰が、区切りをつけてあげられるのでしょうか？ 「周りが協力して、死ぬまで身体を傷め続けている」ように感じます。(病院に勤める私は、居住空間を共にする施設の方が、本人や家族の信頼関係もできているから、日常の中でACPをしやすいのではないかと思います。その情報を入院時に提供してくれたら、治療方針も医師寄りにならずに進めそうな気がします。) 介護施設職員が平時でACP相談をすることは、職員の重荷になりませんか？ (愛知県・言語聴覚士)</p>	<p>お話いただいている通り、我々が日常の中でACPに近いことを傾聴出来ると考えております。ご利用者の重大な想いを医師や弁護士、他職種に伝えることは重荷にならないと言えましょうソになります。しかしながら、少しでもご利用者が日常で考えていることを関係者に伝えることが責務と思ひ、誇りをもって今後も関わっていかねばと思います。(社会福祉法人 恵和福祉会 西澤 寛樹先生)</p>

2024年9月21日(土) 北海道札幌市で開催

「ACPサイクルでつなぐ人生会議」～話す、残す、伝える、見直す～

http://jacra.umin.jp/acp_meeting9/index.html

[ホームページから参加受付中](#)



【事務局】〒062-0034 北海道札幌市豊平区西岡4条4丁目1-52
西岡病院内(担当 岡村 紀宏)

☎011-853-8322 E-mail: acp.study.group@gmail.com

ホームページ

Face Book